

表2 学習・教育到達目標と評価方法および評価基準(2024年度以降入学生) <2019年基準>

学習・教育到達目標の大項目	学習・教育到達目標の小項目 (小項目がある場合記入、 ない場合は空欄とする)	関連する知識・能力観点(a)-(i)の項目	関連する知識・能力観点(a)-(i)との対応	評価方法および評価基準
(A)大項目A 現代社会における地域工学の位置づけを明確にする	小項目(A-1) 生物、生命、生産、生活を包含する「ライフ」を総合的に科学する中で、「資源と環境を適切に保全・管理しながら持続的に利用する環境調和型社会の創造」という重要課題を達成することの意義と、その中における地域工学の技術的な	(a) (b) (d)	◎ ○ ○	以下の授業科目の成績評価が「可」以上であること □地域開発と水環境
	小項目(A-2) 学習した教養育成科目の内容と地域工学との関連付けができ、それを自分の言葉で表現できる。	(a) (b) (d)	◎ ○ ○	教養育成科目の2科目(地域開発と水環境を除く)に関して、ポートフォリオの評価項目「学習・教育目標(A)との関連づけは理解されていたか」が、「4」以上であること 「 」 「 」
(B) 技術者倫理とコミュニケーション能力を身につける	小項目(B-1) 科学技術が社会や自然に及し得る影響(有用性と危険性)と責務・責任の大きさを自覚し、倫理観の備わった自律した技術者像を描くことができる。	(b) (e)	◎ ○	以下の授業科目の成績評価が「可」以上であること □地域計画学
	小項目(B-2) 学習した教養育成科目の内容と技術者倫理との関連付けができ、それを自分の言葉で表現できる。	(b) (e) (f)	○ ○ ◎	教養育成科目の2科目(地域開発と水環境を除く)に関して、ポートフォリオの評価項目「科学技術が公衆や環境に及ぼす影響と責務・責任の大きさを理解しているか」が、「4」以上であること 「 」 「 」
	小項目(B-3) コミュニケーションの基礎となる国際感覚を養うとともに、英文による技術資料を理解するための語学力を身に付ける。	(d) (f)	○ ◎	以下の授業科目の成績評価が「可」以上であること □英語(IA,IB,IIA,IIB) □初修外国語Ⅰ □外書精読Ⅲ
	小項目(B-4) 自分とは異なる考え方を理解し、コミュニケーションと建設的なディスカッションを通してチームワークを発揮することができる。	(d) (f) (i)	○ ◎ ○	以下の授業科目の成績評価が「可」以上であること □環境共生科学入門 □土質理工学実験 □土木材料科学実験
(C) 地域工学の基礎となる数学、自然科学と情報技術を身につける	小項目(C-1) 地域工学が扱う諸課題の解決のために、統計や情報の処理と解析に関する基礎知識を修得し、地域工学につながる課題を解くことができる。	(c) (d)	◎ ○	以下の授業科目の成績評価が「可」以上であること □統計学 □情報科学D2 □数理・データサイエンスへの誘い
	小項目(C-2) 地域工学が必要とする知識と技術を習得するために、数学や自然科学に関する基礎知識を身につけ、地域工学につながる課題を解くことができる。	(c) (d)	◎ ○	以下の授業科目うちの3科目以上が成績評価が「可」以上であること 「 」 「 」 「 」 自然系学部共通科目(選択必修):基礎微積分学Ⅰ,基礎微積分学Ⅱ,基礎線形代数学Ⅰ,基礎線形代数学Ⅱ,アルゴリズム基礎,基礎物理学Ⅰ,基礎物理学Ⅱ,化学基礎A,化学基礎B,地球環境科学概論,地球物質資源科学概論,電気電子工学概論,建築デザイン概論,基盤科目・専攻科目(選択):地域開発と水環境,応用数学Ⅰ,応用数学Ⅱ,物理学,環境汚染化学
(D)大項目D 地域工学に関する専門知識を身につける	小項目(D-1) 農村地域や中山間地域の有する地域資源(主として水資源)を有効に活用することによって、生産基盤、生活環境と自然環境を兼ね備えた、豊かな地域を実現するための専門的な基礎学力と技術を確実なものとし、応用につながる課題を解くことができる。	(b) (c) (d) (e) (h)	○ ○ ◎ ○ ○	以下の授業科目の成績評価が「可」以上であること □基礎水理学(選択) □水理学Ⅰ □水理学Ⅱ □水質水文学 □流域水文学
	小項目(D-2) 農村地域や中山間地域の有する地域資源(主として農地資源)を有効に活用することによって、生産基盤、生活環境と自然環境を兼ね備えた、豊かな地域を実現するための専門的な基礎学力と技術を確実なものとし、応用につながる課題を解くことができる。	(b) (c) (d) (e) (h)	○ ○ ◎ ○ ○	以下の授業科目の成績評価が「可」以上であること □土壌物理学 □農地工学 □測量学Ⅰ □測量学Ⅱ
	小項目(D-3) 農村地域や中山間地域の有する地域資源(主として水利施設)を有効に活用することによって、生産基盤、生活環境と自然環境を兼ね備えた、豊かな地域を実現するための専門的な基礎学力と技術を確実なものとし、応用につながる課題を解くことができる。	(b) (c) (d) (e) (h)	○ ○ ◎ ○ ○	以下の授業科目の成績評価が「可」以上であること □構造力学の基礎 □構造力学 □土質工学Ⅰ □土質工学Ⅱ □地域計画学 □水利施設工学Ⅰ □建設材料工学
(E)大項目E 継続学習プロセスとデザイン能力を身につける	小項目(E-1) 修得した知識が技術と相互に関連している事を理解し、チームワークの下で実験や実習の課題を解決できる。	(d) (e) (i)	◎ ○ ◎	以下の授業科目の成績評価が「可」以上であること □土質理工学実験 □土木材料科学実験 □測量実習Ⅰ □測量実習Ⅱ
	小項目(E-2) 地域工学に関する課題を抽出し、様々な制約を踏まえた解決方法を探索するとともに、計画的に仕事を進め、的確に発表することができる。	(d) (e) (g) (h)	◎ ◎ ◎ ◎	以下の授業科目の成績評価が「可」以上であること □卒論演習 □卒業研究
	小項目(E-3) 社会的要請の変化や新しい技術に対応するために、自律的な学習や情報収集を継続することができる。	(e) (g)	○ ◎	ポートフォリオの評価項目がすべて「4」以上となること

注: 対象科目は主に必修科目について、できるだけ重複を避けて記載している(一部に選択科目を含む)。